

◆ 平成26年度活動報告シート ◆

団体名：かわごえ里山イニシチブ

代表者：代表 増田 純一

URL：<https://www.facebook.com/kawagoesatoyama>

1. 活動が必要とされた状況

かわごえ里山イニシチブでは、みんなで連携して生きものの賑わいを取り戻し、環境保全と里山保全を目指した田んぼ活動を支援し活動しています。

このため、吉田地区のみなみかぜいきいき田んぼの会、笠幡地区の東洋大学「笠幡水田再生プロジェクト」、福田地区の高梨農園の3地区田んぼで生きもの調査を行いました。

また、吉田の田んぼで「かわわ（川越の輪）シェア田んぼ」1号田がスタートしました。非農家のみんなで小規模の田んぼをシェアして農的な生活をしながらお米を自給するという試みで結果的に休耕田をなくし環境保全と里山保全につながるという取り組みです。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

（1）生きもの調査

実施時期は6月28日～29日。参加人数は約90名。活動内容は「田んぼの環境診断チェックシート」を使い、田んぼの生きもの調査を行いました。田んぼで暮らす生きものをA、B、Cグループ、外来種に分け点数を付け、100点満点で田んぼの豊かさ（環境の豊かさ）を評価します。

（2）かわわシェア田んぼ

平成26年12月と27年1月の2回の説明会を実施し14名の参加を得ました。10口の募集口数は満杯となりました。4月から無農薬による米作りの本格活動を開始し9月の収穫を目指します。



吉田の田んぼの生きもの調査



福田の田んぼの生きもの調査



かわわシェア田んぼ参加者

3. 活動の成果

人と自然、人と人との交流や環境教育、生物多様性で環境豊かな田んぼの理解促進を行うことができました。また、誰でもできる環境評価の方法を学ぶことができ、「田んぼの環境診断チェックシート」の環境指標で各地区田んぼの環境評価をすることができました。特に、大勢の子供達に生きものによる環境の大切さを教育することができました。

4. 今後に残された課題

かわわシェア田んぼでは非農家による米作りを行うために農業機材や機材置き場が必要となります。また、無農薬田んぼの抑草などの課題解決のために、2015 田んぼフォーラムを開催します。民間稲作研究所で長年の研究によって確立された除草剤を全く使わない抑草技術を講演いただき、4月と5月に有機稲作ポイント研修会で実地研修会を行います。